

2020（令和2）年度学校評価表

遊学館高等学校

建学の精神	何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと（遊学の精神の涵養）。 周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること（良妻賢母の育成）。
教育理念	教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。
教育目標	文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間の育成をめざす。

【アンケート調査】				
	名 称	実施予定	対象	担当部署
1	学校行事アンケート（体育祭）	6 月	全校生徒	保健体育科
2	保護者アンケート	7 月	2, 3 年生保護者	教務部
		3 月	1 年生保護者	
3	学校行事アンケート（学園祭）	9 月	全校生徒	生徒会
4	学校生活アンケート	10 月	全校生徒	生徒指導部、遊学講座運営委員会、1～3 年学年会
	★ 調査項目：品格、挨拶、愛校心、正義感（マナー）、遊学講座、総合学習（探究）の時間			
5	委員会アンケート	10 月、2 月	各委員会	生徒会
6	授業アンケート	12 月	全校生徒	教務部
7	卒業生アンケート	2 月	3 年生	3 年学年会
8	修学旅行アンケート	3 月	2 年生	2 年学年会

重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成						
重点目標に対する具体的取組		担当部署	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	自らの品格を高めるとともに、他者の人格を重んずる心を養う ○SNS によるトラブル及びいじめの未然防止 ○スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	評価：C 相変わらず SNS のトラブルがあった。携帯電話に依存している生徒も多く、指導には家庭の協力が不可欠である。 教育相談とカウンセラーの連携は充実しており、生徒の心のケアに努めた。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	B	1 年生女子における SNS のトラブルが多かった。引き続き家庭との連携が不可欠であり、協力が必要である。 先生方が SNS について、勉強することも必要である。 教育相談とカウンセラーの連携は充実しており、生徒の心のケアに努めた。
②	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	評価：C 部活動の生徒においては良好。しかしながら他の生徒に関しては、残念ながら挨拶ができない生徒が多い。教員から率先して声掛けをしていきたい。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	S	校門指導や教員の声掛けにより、挨拶が出来る生徒が増加。今後は校外においても積極的に挨拶が出来るように指導したい。
③	正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導（毎日実施） ○服装指導期間（定期的） ○服装指導（日常的） ○頭髪指導（月一回）	生徒指導部	評価：D 女子生徒のカラーリップにおける指導が増加。スカート丈の指導においては、校外にでると短くする生徒が多い。校外指導を増やし指導していきたい。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 S 90%以下 A 95%以下 B 105%以下 C 110%以下 D 110%超	A	指導通知書の発行枚数は減少したが、コロナ禍の中なので評価しづらいものがある。 昨年に引き続き、女子生徒のスカート丈の指導が多い。服装指導については、一定の教員だけでなく、全ての教員の声掛けが必要である。
④	愛校心を持って校内美化に取り組む	生徒指導部	評価：C 清掃活動では個人差が大きく、率先して出来る生徒と、教員の指導がないと出来ない生徒がいる。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	S	掃除の時間を業後に変更し、奇数・偶数の当番制とした結果、清掃活動に取り組む生徒が増えたように思える。生徒のアンケート結果は良好だが、教員の指導がないと取り組めない生徒もいる。
⑤	不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	評価：D 遅刻は、特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒の生活習慣の改善や家庭の協力が必要である。	遅刻者集計表で 10%未満の月数 S 7 ヶ月以上 A 6 ヶ月以上 B 5 ヶ月以上 C 4 ヶ月以上 D 3 ヶ月未満	C	遅刻は、特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒の生活習慣の改善や家庭の協力が必要である。
⑥	正義感を持って公共のルール・マナーを守る ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	評価：C 残念ながら、バス停でのマナーや自転車における交通マナーでのご意見をいただくことが多い。全校集会での指導や巡回にも出ているが減少につながらない。その一方で、小学生の見守り隊や地域のごみ拾いなど、ボランティアで頑張っている生徒もいる。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	A	昨年度よりは、バス停における外部からのご意見をいただくことは、教員のバス停指導を定期的に実施し減少したが、コロナ禍のなか、マナーについてのご意見をいただくことがあった。 また、地域のボランティアなどに積極的に取り組む生徒もいる。

重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける					
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
①	指導力及び資質の向上 ○研究授業の実施 ○互見授業週間の活性化	教務部	評価：B 研究授業では教科ごとに方向性を定めた内容で実施されていた。日々の授業向上に向けては、互見授業の活性化を図っていく必要がある。	ループリック 5 点満点評価（回数・準備・合評会・改善度） S 4.7 点以上 A 4.3 点以上 B 3.6 点以上 C 3.0 点以上 D 3.0 点未満	C 学期ごとに互見授業週間を設けた。その中で評価表を変更して行ったが、意見だけを書く表よりも、ループリック評価の表のほうが授業見学に行く教員が多かった。また実施時期によって参加人数が極端に少ないこともあった。そのため、次年度以降も評価表と実施時期は検討が必要である。評価については全てをループリックで行っていないため、主観である。
②	コースに伴う教育活動の充実 ○探究活動の充実 ○ICT の活用	教務部	評価：B ICT の活用は、これからも持続的に導入方法を検討していく必要はあるが、日常的に 6 割ほどは ICT を活用しての授業が行われたことが結果として出ている。	授業アンケートの総合評価で、肯定的評価 80%以上の教員の割合 S 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D 授業アンケートの結果については、肯定的評価 80%の教員割合は 67.6%となった。これは、コロナ禍により生徒に発言やグループワークの指導を行うことができなかったことが大きな要因と考える。ICT の活用については、日常的にプロジェクターの使用が多く、生徒により効果的な提示を行いながら授業展開をしている。
③	学習の基礎基本の徹底 ○好ましい学習習慣を身につけるための指導	教務部	評価：D 授業内容の向上や学力の定着を図るために課題量を増やしている教科がある。そのため提出に間に合わない生徒が多くでた。	授業態度指導カードの発行数と全生徒数との割合 S 5%未満 A 5%～10% B 10%～25% C 25%～50% D 50%超	A 授業態度指導カードの発行数の全校生徒に占める割合は 7.96%であった。そのうち、複数回を重ねる生徒の割合は 1.9%であり、指導を受けるほとんどの生徒が改善の方向にあるといえる。家庭学習においては、休校等の影響もあったが、3 学期より週末課題を試験的に開始し、教科ごと課題への取り組み姿勢がよりよい方向へと働けばと考えている。
④	「総合的な学習の時間」を充実・発展させる （1、2 年生は「総合的な探究の時間」）	1 年学年会	評価： （1）論語の書き写しと感想を書かせる。 （2）『MY CAREER NOTE』で高校生活を記録させる。 （3）『遊学講座振り返りシート』の記入 （4）小論文テストの実施 生活態度や人とのつながりなどを振り返り、問題意識を持ち学校生活に生かせるになった。 書く作業を通じて、自分の考えをまとめ書く力が高まったと感じた。	学校生活アンケート（総合学習（探究）の時間）の結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A ENAGEED という教材を使用し、「この先の未来、自分がどう人生を歩んでいくか」の判断基準を考え抜き、これから何をしたいのか、どんなことを学びたいのかに気づき、自分が選んだ道を正解にするための力を身につけるための学習を行い、未来に向けてイメージを広げ、問題点に気づき発案する力などこれから求められる力について考えることができた。
		2 年学年会	評価： 論語の教材を利用し、先人の教えや人との関わり方を学び、自分の考えを文章でまとめた。 ・フランスの姉妹校が来校した際、歓迎セレモニーを企画し、交流を深めた。 ・修学旅行の事前学習では、地方の文化や風習について調べるグループ学習を行った。 ・マイキャリアノートを活用し、高校生活をより充実したものになるよう自分自身を見つめなおした。 活動を通して、相手を思いやる気持ちの大切さに気付くことができた。自分の考えを文章にまとめることにより、書く力が身についた。		A 論語の教材を利用し、今後の高校生活も含めて、人間関係を円滑にしていこうと、思いやりのある心が大切であることを学んだ。 ・志望理由書のマスターノートの学習を通じて、志望理由書を作成し、その後の添削によるフォローノートの作成、2 回目の志望理由書を行うことで、少しずつ質の高い文章が書けるようになってきた。進路に向けての良い準備ができた。
		3 年学年会	評価： 新聞のコラムを活用し、読解力や語彙力を高めるとともに、コラム内容に沿ったテーマについて 200 字程度の文を書き、文章表現力を培う活動を行った。 成果として、与えられた文章を読み解く力の育成や、文章を書く際の手紙の使い方、テーマの趣旨を捉え、文章に説得力を持たせる力などが育成された。		S 論語の教材を利用し、社会に出た時によい人間関係を築き上げることができるよう、人との関わり方や、思いやりの心が大切であると学んだ。 ・マイキャリアノートを活用し、高校生活をより充実したものになるよう自分自身を見つめなおした。 ・志望理由書マスターノートや小論文の学習を通して、書く力を身につけた。 活動を通して、相手を思いやる気持ちの大切さに気付くことができた。自分の考えを文章にまとめることにより、書く力が身についた。

重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける					
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
⑤	英語検定受験者の増加と資格取得	検定担当者 （英語科）	評価：B（8点） 合格者 準1級1名 2級2名 準2級13名 3級42名 総受験者数：174名 校内受験率：12.9% 合格率：33.3% 第2回の検定では特進の生徒の多くが受験したため、総受験者数と校内受験率が増加した。生徒の多くは3級に合格するだけの実力を持っているため、積極的に受験を進めることが必要だと感じた。2級に関しては多くの生徒が苦戦しており、原因として記憶している単語量が圧倒的に少ないことがあげられる。	ルーブリック 12点満点評価 （受験者数・準2級以上の合格者数・取得率） S 12点 A 10点以上 B 7点以上 C 4点以上 D 4点未満 ※今年度は休校期間の関係で第1回の検定を実施できないため、評価の受験者数と合格者数に関しては評価基準の3分の2で評価をする。	B 評価：B（9点） 合格者 準1級1名 2級2名 準2級36名 3級20名 全校生徒1194名中（2月4日時点） 総受験者数：170名 校内受験率：14.2% 合格率：34.7% 多くの生徒が大学入試に向けて英検の取得に興味関心を持つようになってきた。そのため、数年前までは3級の受験が主であったが、現在は準2級の受験者数が増加している。結果として2年生特進クラスの取得率は著しく、24名中16名が準2級以上を取得したことになり、うち2名は2級を取得し1名は準1級に挑戦している。
⑥	模擬試験における目標の明確化 ○模擬試験結果のフィードバック	教務部	1年生評価：B 該当生徒に対して、事前取り組みを学年会と教科会（学年会内）に協力をいただき割合を減らすことができた。	D層の生徒数と学年生徒数の割合 S 10%以下 A 30%以下 B 45%以下 C 60%以下 D 75%超	1年生 C 第2回スタディーサポートにおいては、D層の割合は、1年生59.6%、2年生79.7%である。 どの学年も、教科などで模擬試験を活用する機会が少ないため、生徒は模擬試験の意義や成績について認識、関心が低い。
			2年生評価：C 模試の結果を今後の進路に関係させていく必要があると考える。		2年生 D 今後、進路指導部とも協力し、模試のあり方や活用方法などを検討したい。
⑦	図書室利用者数の増加	図書委員会	評価：C 休校期間に入ったため3学期は利用者数が伸びなかったが、2学期からの総計で130名の利用者数となった。昼休みを利用して蔵書の整理も始めており、次年度につなげていきたい。	利用者数 S 年350人以上 A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	D コロナ禍の状況で通常の活動ができなかった。委員会として図書室の整備を行った。また、室内の一部の改修工事が実施された。

重点目標 3. 広い視野を持ち主体的に学校生活を営む					
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会	評価：B 少しずつではあるが、生徒主導のものにシフトしてきた委員会もある。活動自体は各委員が責任をもって取り組んでいた。	委員会アンケート S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B コロナウイルスの影響で、行事が減少し、行事での委員会の仕事はほとんどなくなったが、日常での委員会の活動は生徒が責任を持って行っていた。また、生徒会が主体となり委員会の生徒を動かす場面も多く見られた。来年度は委員会の改編を予定している。
②	本校らしい体育祭・学園祭 ○生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科 ＜体育祭＞	評価：A 今年度も準備から運営まで生徒主体で行うことができた。各団の創作ダンスが好評だった。年々増加傾向にある保護者の観覧について対応を工夫する。	体育祭アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	---
		生徒会 ＜学園祭＞	評価：B 安心・安全な学園祭になるように、まずは衛生的な面でこれまでとは違った取り組みを増やした。	学園祭アンケート結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	---
③	充実した修学旅行を実施する ○事前・事後（プレゼン含む）学習の内容を深める	2 年学年会	評価： コロナウイルス感染症により、修学旅行は実施できなかった。	修学旅行アンケート結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	--- コロナウイルス感染症により、修学旅行は中止となった。しかし、3 年次に代替遠足を 2 回予定しているので、その遠足に向けての準備を今後行う。
④	卒業生アンケートを実施し、本校への満足度調査を行う	3 年学年会	評価：B アンケート項目ほぼ全てにおいて 75%以上の肯定評価を得た。全体の平均は 86%であった。	卒業生アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A コロナ禍で行事が中止縮小されることが多かったが、生徒は充実した学校生活をおくり、進路実現に向けよく努力をしていた。
⑤	保護者に対し、アンケートを実施し、本校の満足度調査を行う。	教務部	評価： 今年度から実施	保護者アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 今年度は 3 年生の保護者を対象としアンケートを実施した。実施時期は 1 学期保護者会。回答数 2 5 1 は生徒数の約 7 0 %である。概ね評価は高く、一番低いのはコロナ禍のため中止が多かった学校行事に関するものであった。
⑥	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座 運営委員会	評価：S（肯定評価 95%） 閉講式は年々充実してきたように感じる。実施回数を 24 回から 18 回に変更する。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 今年度より年間回数が 18 回に変更となっている。感染症の影響で実施予定日を遅らせることになったことや検定の実施回数自体が減っていることが受講状況にも影響があるようにみられる。(91%)
⑦	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	特別活動部	評価：B 5 月（全学年） 男子：66% 女子：53% 全体：60% 1 0 月（1・2 年） 男子：65% 女子：56% 全体：61%	部活動加入率 S 75%以上 A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B 5 月（全学年） 男子：66% 女子：54% 全体：61% 1 0 月（1・2 年） 男子：63% 女子：55% 全体：59%
⑧	部活動において、県総体等（3 年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす 硬式野球（夏の県予選）、サッカー（選手権県予選）、駅伝競走（県予選）、バトントワリング（全国大会地区予選）、吹奏楽（全国大会県予選）	特別活動部	評価：C 男女卓球部（県 1 位）駅伝競走部（男子県 1 位／女子県 2 位）サッカー部（県ベスト 4）女子バレー部（県ベスト 8）バトン部（県 1 位）吹奏楽（県 2 位） ※合計 58 点	学校対抗戦において、優勝（県代表）10 点、準優勝 6 点 ベスト 4 入賞（金賞）4 点 ベスト 8 入賞 2 点 で換算 S 80 点以上 A 70 点以上 B 60 点以上 C 55 点以上 D 55 点未満	--- ※令和 2 年度の県総体において陸上（駅伝競走）以外の競技はすべて中止となり、評価できませんでした。
⑨	学校のグローバル化を推進する	国際交流 推進委員会	評価：D 11 月にシジス校から 12 名の生徒が来校した。生徒会、学年会、保護者の協力を得て、充実した 1 週間となった。	シジス校との交流 S 実際に生徒同士交流する A 生徒同士がオンラインで交流する B 教員間メール交換(6 回～) C 教員間メール交換(3 回～) D 教員間メール交換(～2 回)	D ナンシー市やシジス校のコロナ感染症の状況が把握できなかったため交流は控え、教員間のメールのやり取りにとどめた。

重点目標 4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上					
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
①	国公立・難関私立大学合格実績 ○新形式での特進補習開始 ○一般文系向けの業後補習開始 ○進路指導室での進学意識向上化 ○新入試制度や新型コロナウイルスによる影響など、状況に応じた的確な進路指導を行う。 ○志望校（国公立・難関私大）検討会議の開催	大学入試対策委員会	評価：D 特進クラス担任3名と部長で生徒志望校の他に他校の可能性についての検討会を実施。私立大学への受験については、家庭的な事情によって左右される部分が大きく、今年度の上位者にはほとんど志望者がいなかった。奨学金制度の見直しや私学上位校受験者に対する支援の検討などを行う必要がある。	国公立・難関私立大学合格者数 S 20名以上 A 15名以上 B 10名以上 C 5名以上 D 5名未満	C 学力の低い生徒が多い特進クラスであったが、3年間かけて伸ばすことができた生徒もいた。しかし、コロナ禍において、外部模試を受けさせることができなかったり、行事ごとによる経験値が上がらなかったりしたことで、本番で力が出せなかったものが多い。また本年度より共通テストとなり新しい問題形式に対応できなかった部分もある。学力はもちろんのこと、精神面でもどのような入試にも対応できる力を身に付けさせる対策を講じる必要がある。
②	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	高大連携教育推進委員会	評価：C 大学への進学者数は20名で、全体の3.8% 合格者の内訳は以下の通り。 社会福祉学部：7名 ※子ども福祉学科5名 医療健康学部：5名 看護学部：9名 ※看護学部1名を除く、20名が進学	全校生徒に対する進学者の割合 ＜金城大学＞ S 6%以上 A 5%以上 B 4%以上 C 3%以上 D 3%未満	S 大学への進学者数は29名で、全体の7.9% ＜合格者の内訳＞ 社会福祉学部：16名 ※子ども福祉学科10名 医療健康学部：8名 看護学部：5名 ※合格者全員が進学 コロナの影響で、県内志向が高まっている。また、景気状況悪化から就職活動への影響を懸念し4年制大学を選択する傾向も見られる。
			評価：B 短大部への進学者数は64名で、全体の12.3% 合格者の内訳は以下の通り ビジネス実務：46名 幼児教育：18名 美術：1名 ※ビジネス実務学科1名を除く、64名が進学	＜金城大学短期大学部＞ S 16%以上 A 12%以上 B 10%以上 C 5%以上 D 5%未満	S 短大への進学者数は64名で、全体の17.4% ＜合格者の内訳＞ ビジネス実務：36名 幼児教育：20名 美術：8名 ※合格者全員が進学 3年学年会として専門学校を志望する生徒に働きかけを行った。またビジネス実務学科での学びを希望する男子生徒が増えた。オープンキャンパスへの参加で、他校の生徒や遊学館を卒業した先輩との交流も志願者数に影響した。
③	一般入試受験者数の増加 ○一般文系対象の業後補習開始 ○新しい進路指導室を活用し、進学意識の向上を目指す。	進路指導部	評価：D 一般進学クラスからの受験者は推薦制入試を利用するものが多く、特進クラスの受験者減がそのまま全体の割合を押し下げる原因となっている。	一般入試受験者（実人数）の割合を昨年度と比較 S 120%以上 A 110%以上 B 100%以上 C 90%以上 D 90%未満	D まず昨年度の3年生との母数が大きく異なること、特進クラスの人数も大きく異なることがある。さらにコロナ禍において、まずは自分の学力にあった志望校、入試制度をみきわめ、確実に合格できる選択肢を取る指導を行った。一文においても指定校や推薦入試を選択させた生徒が多い。特進以外で一般入試を受験する生徒は推薦が受けられないものや、推薦で不合格であったものが多く、学力が追い付いていないのが現状である。
④	就職指導の充実 ○景気に陰りが出てきたので、各生徒と企業に対して昨年以上にきめ細かく対応して、就職指導を行っていく必要がある。また、今年度は公務員志望者が20名ほどいるので、民間企業とは別に説明会を実施する。	進路指導部	評価：A 就職者（学校紹介・縁故・公務員）45名全員が就職を決定できた。	就職希望者（学校紹介）の決定率 S 100% A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	S コロナ禍において、保護者も就職の厳しさを感じているせいか、現実を見据えた就職志望を出していた。求人は思っていたほどの減少はなく、学校紹介においては全員が内定となった。

以上